

めあて 「二人の紳士」の気持ちを想像しながら読もう

1段落～7段落を声に出して読みましょう

もういちど1段落～7段落を読みながら、つぎのことを考えましょう。

◎二人のわかい紳士は、どんなかっこうで狩かりに来ていますか？

----- -----

☆その姿を思いうかべてみましょう。かっこいいですか、それともへんですか？
そう思ったわけも書きましょう。

----- -----

◎二人の紳士の会話を読んで、どんな人がらや気持ちを感じられますか？そう感じる言葉に線を引き、下のらんに自分の考えを書きましょう。

《紳士の会話》	思ったこと
「ぜんたい、ここの山はけしからんね。鳥もけものも一ぴきもいやがらん。なんでもかまわないから、早くタンタアーンと、やってみたいもんだなあ。」	----- ----- -----
「しかの黄色な横っぱらなんぞに、二、三発お見まいもうしたら、ずいぶん痛快だろうねえ。くるくる回って、それからどたつとおれるだろうねえ。」	----- ----- -----
「実にぼくは、二千四百円の損 <small>そんがい</small> 害だ」と、一人の紳士が、その犬のまぶたをちよつと返して見て言いました。	----- ----- -----
「ぼくは、二千八百円の損害だ。」と、も一人が、くやしそうに、頭を曲げて言いました。	----- ----- -----

「ぼくはもうもどろうと思う。」

「さあ、ぼくもちようど寒くはなったし、はらはすいてきたし、もどろうと思う。」

「 সেই যা、これで切り上げよう。なあに、もどりに、昨日の宿屋で、山鳥を十円も買って帰ればいい。」

「うさぎもでていたねえ。そうすれば結局おんなじこった。では、帰ろうじゃないか。」

「どうもはらがすいた。さつきから横つばらがいなくてたまらないんだ。」

「ぼくもそうだ。もうあんまり歩きたくないな。」

「歩きたくないよ。ああこまったなあ。何か食べたいなあ。」

「食べたいもんだなあ。」

3段落から最後まで声に出して読みましょう。

もういちど、3段落から順に読みながら、次のことを考えましょう。

◎二人の紳士は、何を見つけてきましたか？

どんな札が出ていましたか？書いてみましょう

◎このかんばんを見て、二人はどんな気持ちになったでしょうね。(不安になったかな？それとも……)その場面を読んで、あなたの考えを書きましょう。

◎ 「入り口に書いてある言葉」を見て言った二人の言葉を書き出しましょう。そして、そこを読んだあなたの感想もひとこと書きましょう。

ガラスの開き戸	二人の言った言葉
<p>【注文の言葉】</p> <p>【どなたもどうかお入りください。決してごえんりよはありません】</p>	<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと。	
<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	

ガラス戸のうら側	二人の言った言葉
<p>【注文の言葉】</p> <p>【ことに太ったお方やわかいお方は、大かんげいいたします】</p>	<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと。	
<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	

ペンキぬりの戸の上	二人の言った言葉
<p>【注文の言葉】</p> <p>【当軒<small>けん</small>は注文の多い料理店ですからどうかそこはご承知ください】</p>	<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと。	
<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	

ペンキの戸のうらがわ

【注文の言葉】

【注文はぜひいぶん多いでしょうが、どうかいちいちこらえてください。】

二人の言った言葉

◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと。

鏡とブラシの置いてある戸

【注文の言葉】

【お客様方、ここで髪^{かみ}をきちんとして、それからはきものどろを落としてください。】

二人の言った言葉

◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと

その次の部屋の戸の内側

【注文の言葉】

【鉄^{てつ}砲^{ぱう}とたまをここへ置いてください。】

二人の言った言葉

◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと

<p>◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと</p>	<p>ガラスつぼのある戸</p> <p>【注文の言葉】</p> <p>【つぼの中のクリームを顔や手足にすっきりぬってくださいます。】</p>	<p>二人の言った言葉</p>
---------------------------	--	-----------------

<p>◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと</p>	<p>黒い戸のうら側</p> <p>【注文の言葉】</p> <p>【ネクタイピン、カフスポタン、めがね、さいふ、その他金物類、ことごとがったものはみんなここに置いてください。】</p>	<p>二人の言った言葉</p>
---------------------------	--	-----------------

<p>◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと</p>	<p>黒い戸</p> <p>【注文の言葉】</p> <p>【どうかぼうしと外とうとくつをお取りください。】</p>	<p>二人の言った言葉</p>
---------------------------	---	-----------------

その戸のうら側

【注文の言葉】

【クリームをよくぬりましたか。耳にもよくぬりましたか。】

二人の言った言葉

◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと

次の戸

【注文の言葉】

【料理はもうすぐできます。十五分とお待たせはいたしません。すぐ食べられます。早くもあなたの頭にびんの中の香 水をよくふりかけてください。】

二人の言った言葉

◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと

その戸のうら側

【注文の言葉】

【いろいろな注文が多くてうるさかったでしょう。お気の毒でした。もうこれだけです。どうか体じゅうにつぼの中の潮をたくさんよくみこんでください】

二人の言った言葉

◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと。

最後の戸

【注文の言葉】

【いや、わざわざご苦労です。たいへんけっこうにできました。さあさあおなかにお入り下さい。】

二人の言った言葉

◎ ふたりの言葉から思いうかんだこと。

☆ どうして、二人の紳士はとちゅうで引き返さなかったのでしょうか。（へんだな、おかしいな、と思うことも何度かあったのに）
あなたの考えを書きましょう。

☆ 最後に二人はどうしましたか？ どうなりましたか？

☆ 宮沢賢治が、このお話で読者に伝えたかったことは何だと思いますか？
あなたの考えを書きましょう。